

授業科目等の概要

令和6年度（服飾専門課程ファッションテクニカル科2年）																	
分類	必修	自由選択	種別	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○	-		総論	服飾造形論Ⅱ	プロダクト全般に関する仕事を理解して、製造工程、縫製工程、効率的で品質の安定を図った縫製方法や生産管理に関する知識や技術、縫製機器やアタッチメントの取り扱い、服飾付属品関連知識、素材の種類や生地の特性に対応した裁断、印付け、芯貼り、縫製、補正に関する知識、技術を習得することを目標とする。	2前後	30	-	○	○		○		○			
○	-			アパレル素材Ⅱ	アパレル製品の企画、デザイン、縫製、販売に必要な不可欠な知識である「テキスタイル」。2年次では、アパレル素材に関する原料・糸・組織・仕上げ・意匠などの基礎知識を学び、素材に応じてファッション衣料の取り扱いが出来る技能を身に付ける。また、基礎知識を活かしたテキスタイル制作や作品制作をおこない、技術の習得に励む。□	2前後	60	-	○	○	○	○			○		
○	-		企画	プロデュースショーⅡ	今まで学んできた知識、技術を活かしながら素材作り、テクニック、パターンメイキング、縫製技術を駆使しながら卒業記念展に向けた作品制作を行うことを目的とする。また、グループワークでの取り組みによってコミュニケーションスキルを身につけるとともに、フィッティングから作品のメンテまで一括した品質管理能力を身につける。	2前後	60	-	△	○	○	○			○		
○	-		パソコン	アパレルCADⅠ	東レクレアコンボのソフトを使用しアパレルCADの基本操作の講義。主に原型操作・スカートのデザイン展開をしながら〈パターンマジックⅡ〉の操作方法を習得する。後期からは工業用パターン作成までの手順を学び、企業パタンナーが実務として行っている有型からのデザイン展開に実際に取り組んで理解を深めていく。最後には他授業で制作したアイテムの工業用パターン作成・マーキング・工程分析を作成し、工場に出すまでの流れを実践する。	2前後	60	-	△	○	△	○			○		
○	-		服飾造形	パターンメイキングⅡ	人体の基本構造、体型を理解しながら立体的な服の設計が出来るスキルを身につける。また服種別、シルエット各種のパターンメイキングを習得すると共に素材に応じて、ゆるみや厚み分を考慮したパターン展開法を身につけて、生産に向けた量産パターン（縫い代付け、合印、グレーディング）の知識、技術を習得する。	2前後	180	-	○	△	△	○			○		
○	-			ドレーピングⅡ	ドレーピングに関する基本的な知識、技術を理解し、身体の構造を読み取りながら、数値にとらわれない感性豊かな服作りが出来る技能を身につける。そしてアイテム、デザイン別にシルエットを作り、布目の重要性、ボディとパターンの関係性、ドラフティングの仕方などの平面製図と比較しながらドレーピングの理解を深める。	2前後	30	-	△	○		○			○		
○	-			ソーイングⅡ	パタンナーやデザイナーの意図をくみ取り、縫製仕様書に従い裁断した生地を、素材特性や柄などに配慮しつつ、ミシン作業、アイロン作業、最終仕上げまで各種部分縫いを交えながらより良い製品を作る技術を習得する。また、薄地素材、伸縮素材、ウール地など様々な素材に対応しながらアパレル縫製技術をマスターすることを目標とする。	2前後	540	-	△	△	○	○				○	○
○	-		流通・販売	市場調査Ⅱ	製品を作るうえでの、アイテム毎のトレンドのシルエット・デザイン・ディテール・素材・配色・糸番手等を調査し、ソーイングやパターンメイキングで制作するアイテムに活かしていく。また、製品に対する素材の取り扱い方や仕立て方に理解を深めながら、縫製仕様書やパターンに反映出来るようにアパレル製造の技能を身に付ける。	2前後	30	-	○	△		○	○		○		
合計					8 科目	単位時間：		990				時間					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
指定された教室及び実習を通して、知識・技術を習得する。 前期試験（9月）、後期試験（進級試験）及び、各科目の提出物、出席で評価。	1学年の学期区分	前・後期
	1学年の授業期間	全41週
進級クラスは前期4-9月末を19週とし、後期10月-3月までを23週とする。 卒業クラスは前期4-9月末を19週とし、後期10月-3月までを22週とする。		

(留意事項)

- 1 1の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち2以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。